

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ウィズ・ユー西新井2nd			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 18日 ～ 2026年 1月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	14
○従業者評価実施期間	2026年 1月 18日 ～ 2026年 1月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	当事業所では、子ども一人ひとりの特性や発達段階に応じた支援を大切に、安心して通所できる環境づくりに取り組んでいます。保護者評価においても「安心して預けられる」「相談しやすい」「共感的に関わってもらえている」といった意見が見られ、日常の関わりや保護者対応に対する信頼が得られていることが伺えます。	当事業所では、子どもが安心して過ごせる環境づくりを重視し、日常的な環境整備や安全管理を継続的に行っています。活動スペースについては整理整頓や清掃を徹底し、床に物を置かないことを意識するなど、安全に配慮した環境づくりを行っています。また、カラーテープ等を活用し活動範囲や動線を視覚的に示すことで、子どもが活動場所を理解しやすい環境の構造化を行っています。	現在行っている環境整備やチーム支援体制を継続するとともに、より質の高い支援につなげるための取り組みを進めていきます。活動スペースについては、活動内容や人数に応じて少人数グループでの活動を取り入れるなど、空間の使い方を工夫しながら安全性と活動の充実を図っていきます。
2	環境面では、安全面を意識した環境整備を継続しています。また、子どもが理解しやすい環境の構造化を行っています。		保護者支援については、面談や相談の機会について改めて周知するとともに、子育てに関する助言や情報提供を行う機会を充実させ、保護者との連携をさらに深めていきます。また、避難訓練や安全管理の取り組みについては、通信やSNS等を活用して実施状況を発信し、保護者に分かりやすく伝える工夫を行っています。
3	支援面では、個別支援計画に基づいた支援をチームで実施しています。また、活動プログラムが固定化しないよう工夫しています。	支援面では、朝礼や夕礼、ケース会議等を通じて職員間で情報共有を行い、個別支援計画に基づいた支援がチームとして実施できる体制を整えています。活動プログラムについても、運動活動や制作活動などを組み合わせながら、活動内容が固定化しないよう工夫を行っています。さらに、保護者や学校、相談支援専門員等と連携を図りながら、子どもの家庭や学校での状況を踏まえた支援を心がけています。	地域との関わりについては、地域イベントへの参加や公園活動などを通して、子どもが地域社会と関わる機会を増やす取り組みを検討しています。
4	個人情報保護についても、鍵付き書庫での書類管理やSNS掲載時の配慮等を行い、適切な取り扱いに努めています。	個人情報については、鍵付き書庫にて情報管理を行い、パソコン・インターネットに関してもセキュリティーをかけて厳重に管理を行っています。また、ホームページやSNSで情報を公開する際は、児童の個人が特定されないようにしています。	さらに、アセスメントの視点を整理し、職員が共通の視点で子どもの状況を把握できるよう記録方法や評価の仕組みを整備し、支援の質の向上につなげていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	今回の評価では、全体として概ね高い評価を得られたが、一部の項目において「どちらともいえない」「わからない」という回答も見られました。特に、避難訓練や安全計画、家族支援の取り組み等については、実施している内容が保護者に十分伝わっていない可能性があります。	日々の支援や安全管理の取り組みは実施しているものの、その内容を保護者に伝える機会や方法が十分でない場合、保護者からは取り組みが見えにくくなることが考えられます。	避難訓練や安全計画、家族支援等の取り組みについては、通信やSNS、面談時の説明等を通じて保護者へ積極的に情報発信を行い、取り組みの見える化を図っていきます。
2	地域の児童館や放課後児童クラブ等との交流については機会が限られており、地域交流の機会が十分とは言えない状況です。	地域交流については、安全面の配慮や職員配置、活動場所の確保など調整が必要であり、日常業務の中で機会が限られていることが要因となっていると考えます。	地域交流については、地域イベントへの参加や公園活動などを通して、無理のない範囲で地域との関わりを増やしていきます。
3	環境面では、個室のような完全な個別スペースはなく、クールダウンや静養が必要な場合の環境づくりについて、今後さらに工夫が必要だと考えます。	環境面では、事業所のスペースに限りがあるため、集団活動と個別対応の両立には環境設定の工夫が必要です。	環境面では、マットスペースを活用し、クールダウンや静養ができるスペースを明確化するなど、環境設定の工夫を行います。